

この議会に向けて

埼玉県和光市議会議員 菅原 満

客員研究員

大阪北部地震、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）の災害により亡くなられた方々へお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。また、被災地の復旧に当たられている関係者の皆さまに敬意を表するものです。

◆災害と生活再建

水害、地震、火山、雪害、竜巻等といった、人的、家屋、産業の被害を伴う自然災害が発生しています。いったん災害が発生すると、災害対応等を経て、元の生活に戻るには長期間を要することとなります。

九州北部豪雨から一年を経過していますが、流れ出た土砂や流木の除去や撤去が続いており、さらには、1000人を超える方が仮設住宅での生活を送っているとされます。

住宅再建では、「二重ローン」の問題があり、「被災者生活再建支援制度」、「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」、各種保険などの利用が考えられますが、手続面の煩雑さなど容易に進まない課題が指摘されています。各種制度の対象から漏れてしまう

被災者支援をどうするのか、小規模事業者の場合、個人の生活再建と事業の再建も課題になってきます。

復旧や片付で手一杯な状況と思いますが、今後の課題となると思います。関連制度の周知、行政や金融機関、国などの取組状況、あるいは、行政と法律関係などや金融機関との連携した取組についての確認が挙げられます。

◆災害への備え

最近の気象の変化により、いつ、どのような災害が発生するのか、気象情報に注意していく必要があります。各自治体からの防災メール、携帯メールなどの活用があります。併せて、視覚・聴覚障害の方への速報、避難の体制を確認しておくことが挙げられます。地域防災計画、災害時要援護者支援の計画の実効性、課題について把握しておくことが考えられます。

各自治体では、地区防災計画、マニュアル、計画について、防災訓練を重ね、また、実際の災害の実情を踏まえて検討、見直しを加えられてきています。想定しえない事態も生じるのが災害対応かと思えます。

また、地区防災計画をはじめとした計画、ハザードマップや実際の対応策について、避難や災害対応への行動につながるように防災訓練などを通じて周知、徹底していくことが必要だと考えます。

まず、身の安全を確保する、このことを優先して日常備えをしていくように啓発していくことが挙げられます。

◆災害発生後の対応

災害発生後、大量の災害廃棄物が発生します。今回の災害においても自治体では、仮置き、処分に苦慮していることが伝えられています。そこで、「災害廃棄物処理計画」の策定状況、または、地区防災計画や一般廃棄物処理計画での災害廃棄物の具体的処理方策の策定がどのようになっているのか確認しておくことが考えられます。

災害廃棄物については、発生予測・収集・運搬・保管・環境影響・分別・リサイクル・減量・焼却・最終処分といったことが想定されるのではないのでしょうか。仮置きの際の環境への影響、安全性確保も考えるられます。実際に、相次ぐ災害により、多くの自治体で災害廃棄物の処理を経験してきています。このような実情把握、自分の自治体では、実際の対応がはかれる状況か確認しておくことが挙げられます。

さらには、廃棄物処理施設（焼却場、破碎処理施設）が被災した場合の対応策についても、想定しておくことが考えられます。この場合に、近隣自治体との広域での相互支援、各事業団体との協力体制が必要になると考えます。

また、水害では、衛生面への注意が必要とされています。災害のみならず、その後の衛生面、健康面へのケアが必要になります。

前回も触れたように、外国人の居住者や旅行者に対する災害発生時の体制整備が挙げられます。また、熊本地震や今回の豪雨災害では、医療機関が被災しており、緊

急時の対応について被災想定も考慮しておく必要が生じてきていると考えます。

◆災害と再生

西日本豪雨では、被災状況が軽微にも拘らず観光客が激減しているとされています。このため、風評被害の防止に努める自治体も出ています。災害による直接の損害だけではなく、影響は他にも及んでいきます。日常の生活への考慮も必要になってきます。

酷暑の中でも、多くのボランティアの方が被災地域の復旧に取組んでいます。敬意を表するとともに、このボランティアの働きが地域の支えにつながるの指摘があります。人と人とのつながりで地域の再生にも効果が発揮されることが期待されます。

被災された方への、酷暑の中、肉体的な健康の維持とともに精神面へのケアも重要になります。被災（家族との関係）・片付け・ストレス・生活再建・将来への不安と多岐にわたることから、ケア体制の確認も考えられます。今後とも哀悼の気持ちを持ちつつ、復旧復興、再生にとりくむこと、災害の経験を次代につなぎ、減災につなげていく取組につながればと思います。

◇参考◇『水害 治水と水防の知恵』宮村忠著（中公新書）／『人はなぜにげおくれるのかー災害の心理学』広瀬弘忠著（集英社新書）／『環境省災害廃棄物対策情報サイト』（<http://kowikishori.env.go.jp/>）／新聞各紙

（『2018年8月発行』より）